

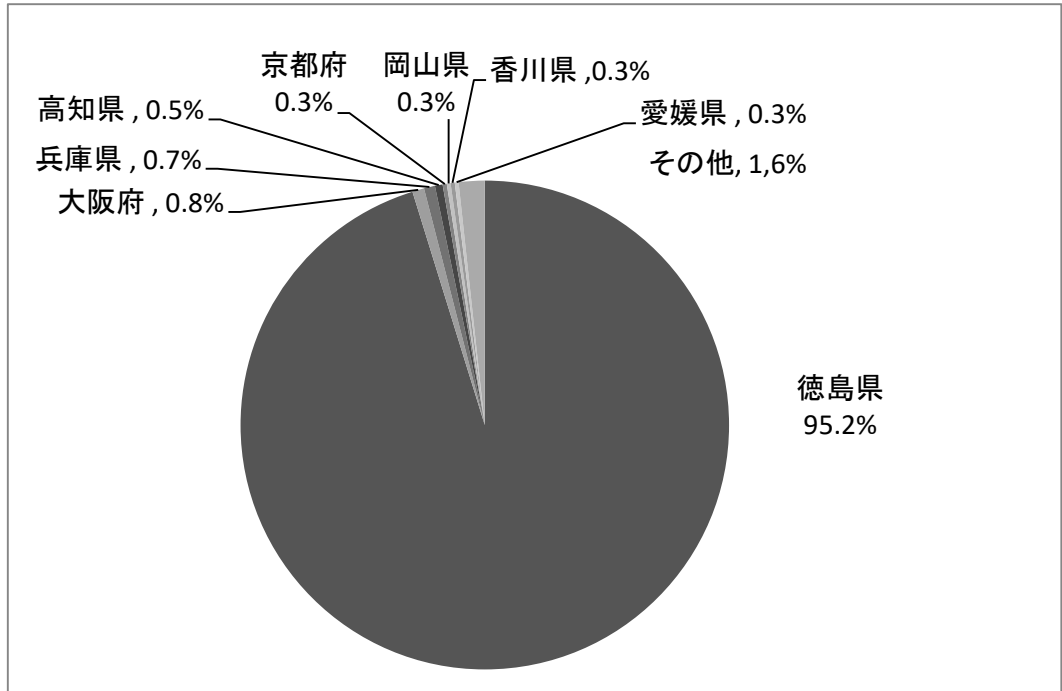
徳島県に関する高校生等アンケート

1. 調査対象 県内高等学校に在学する生徒及び特別支援学校に在学する高等部の生徒

2. 調査数 1,957人

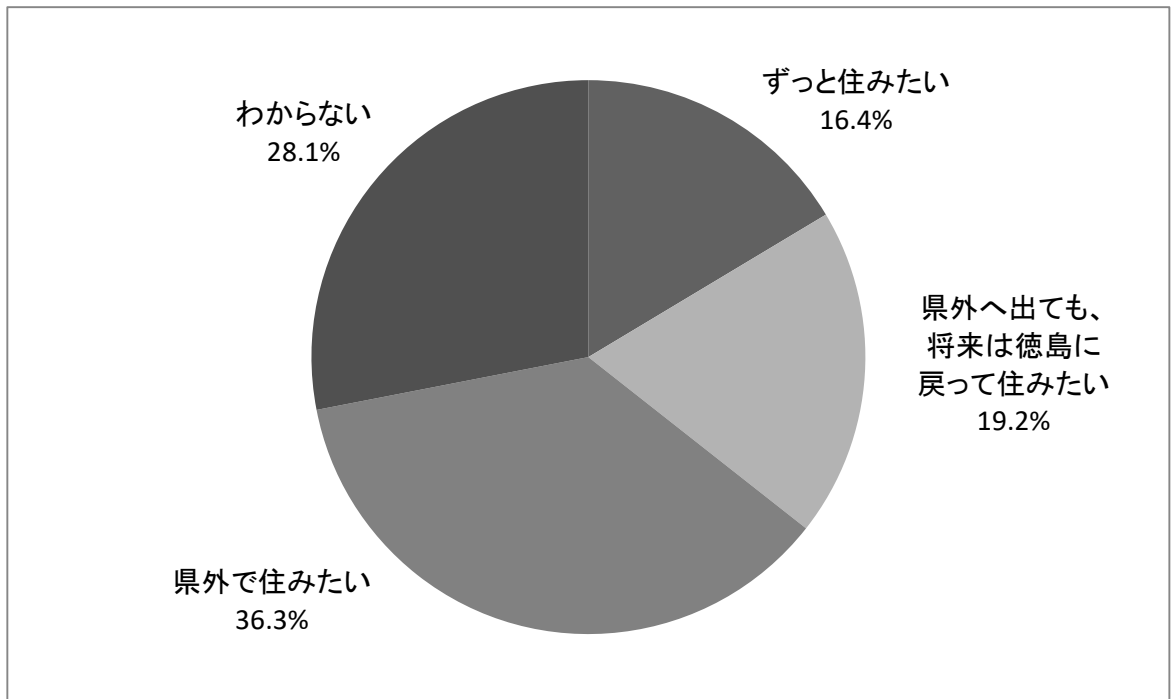
3. 調査対象の構成

(1) 出身地

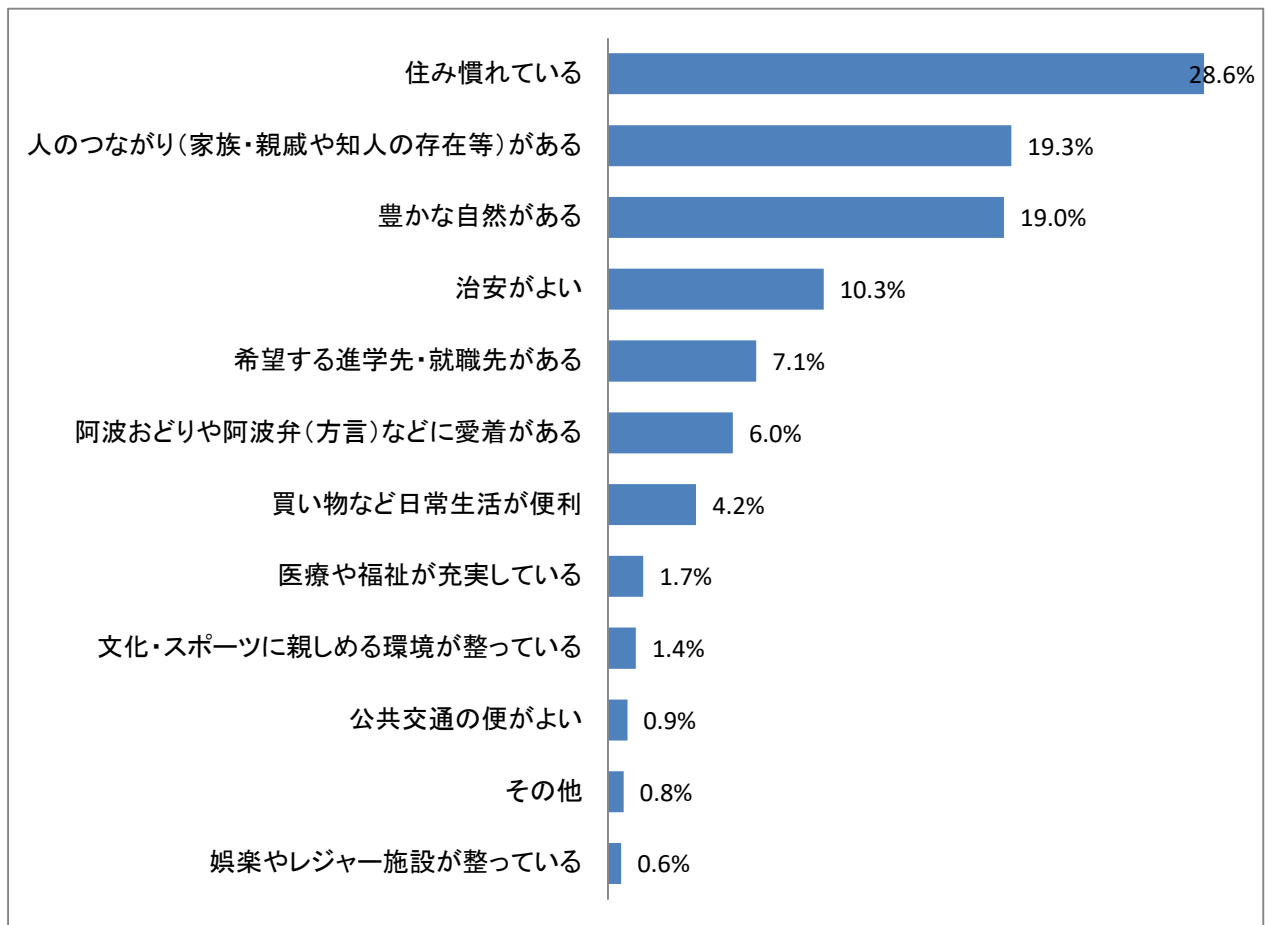


4. 調査結果

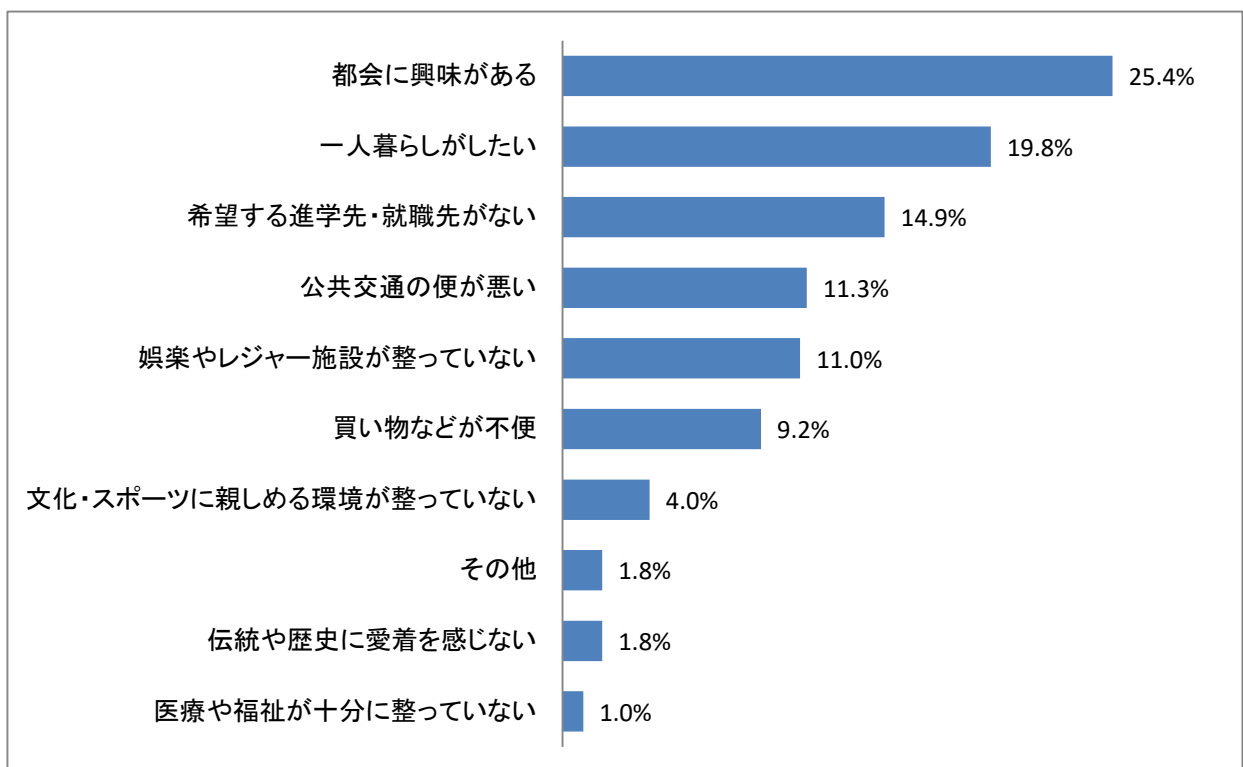
(1) 徳島県への定住志向について



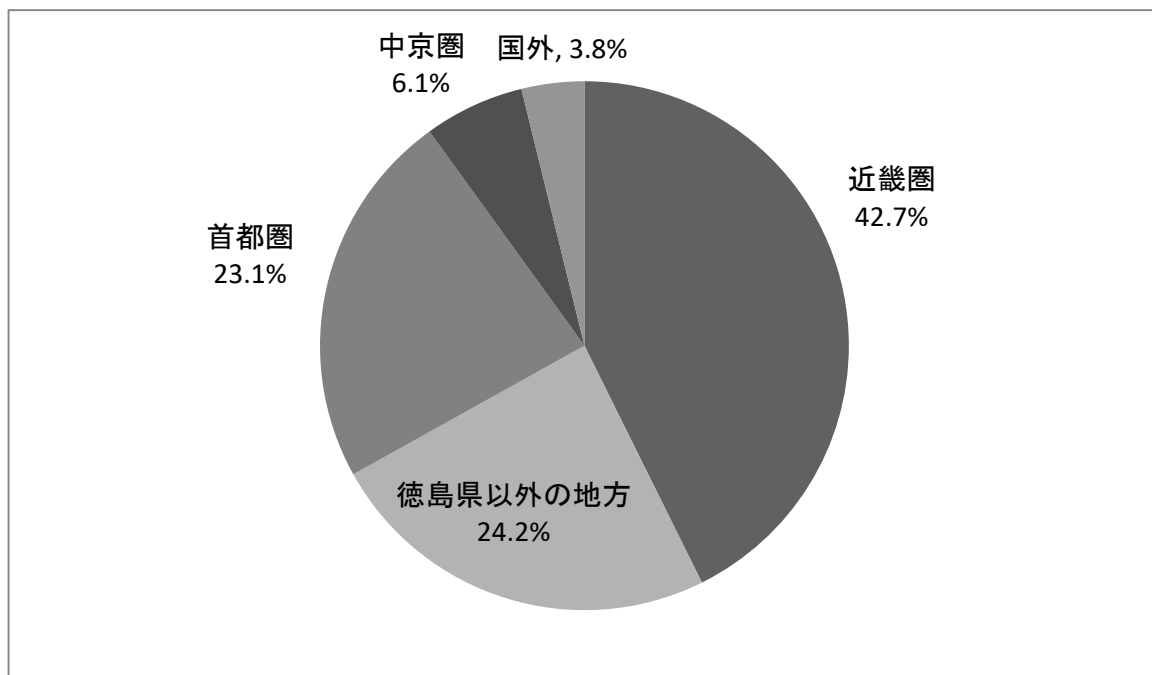
(2) 徳島県に定住したい理由について



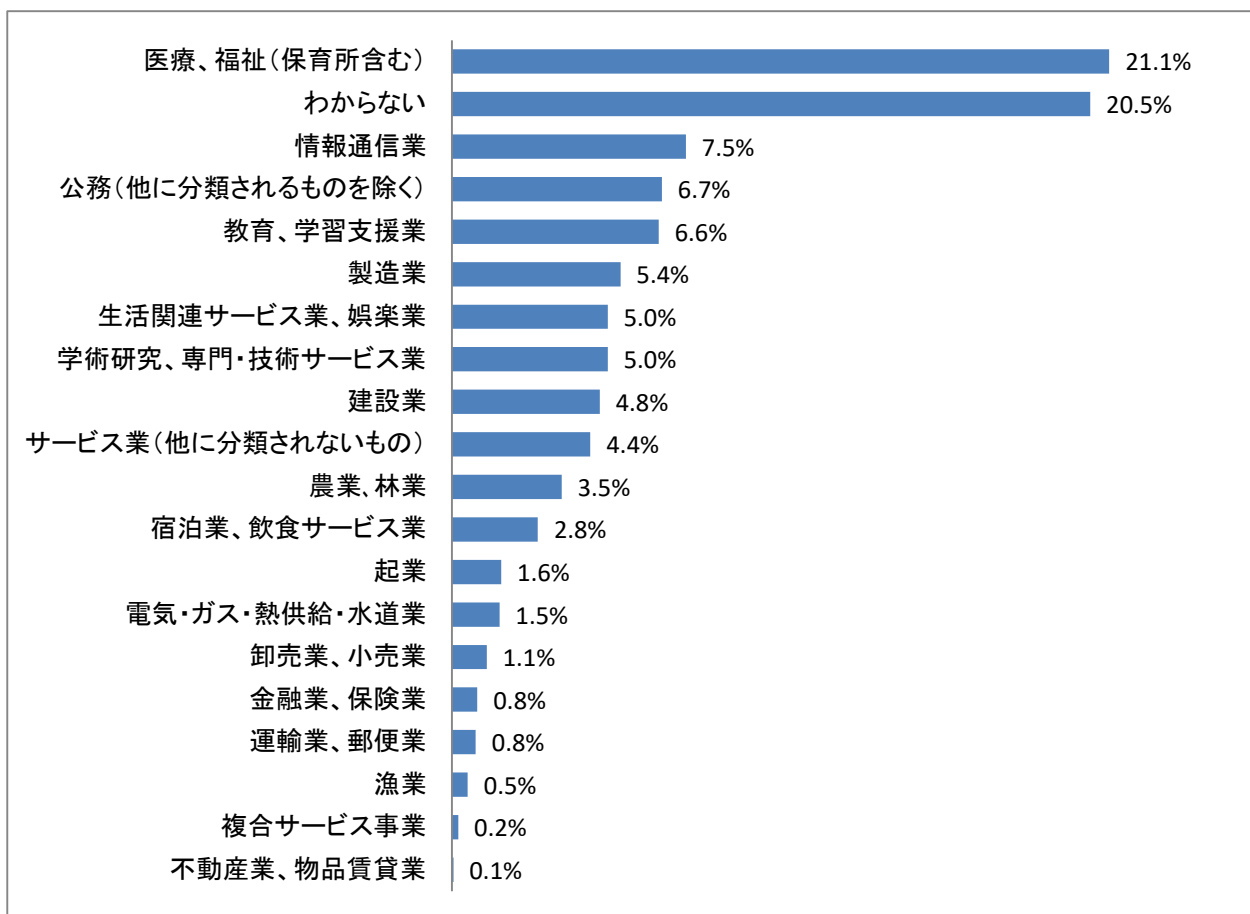
(3) 徳島県に定住したくない理由について



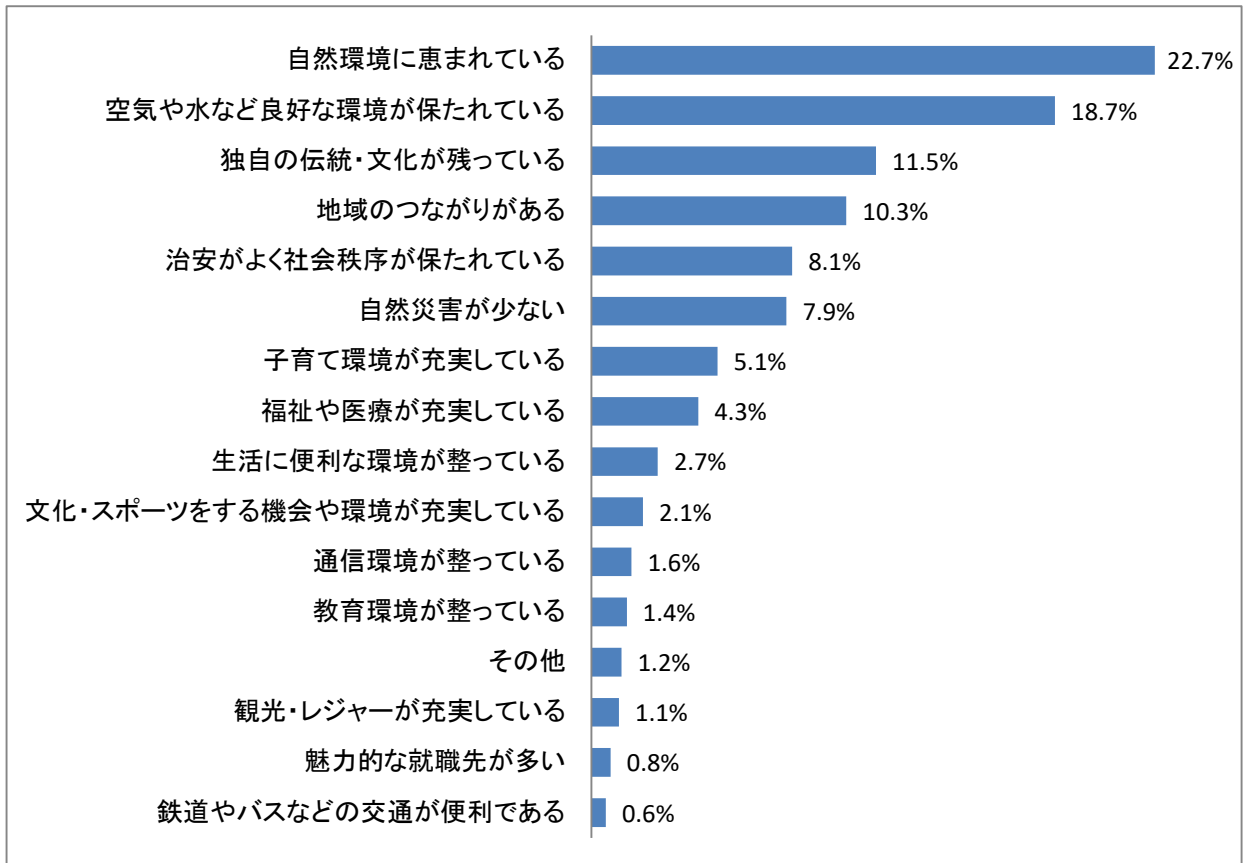
(4) 徳島県に定住したくない場合に希望する居住地について



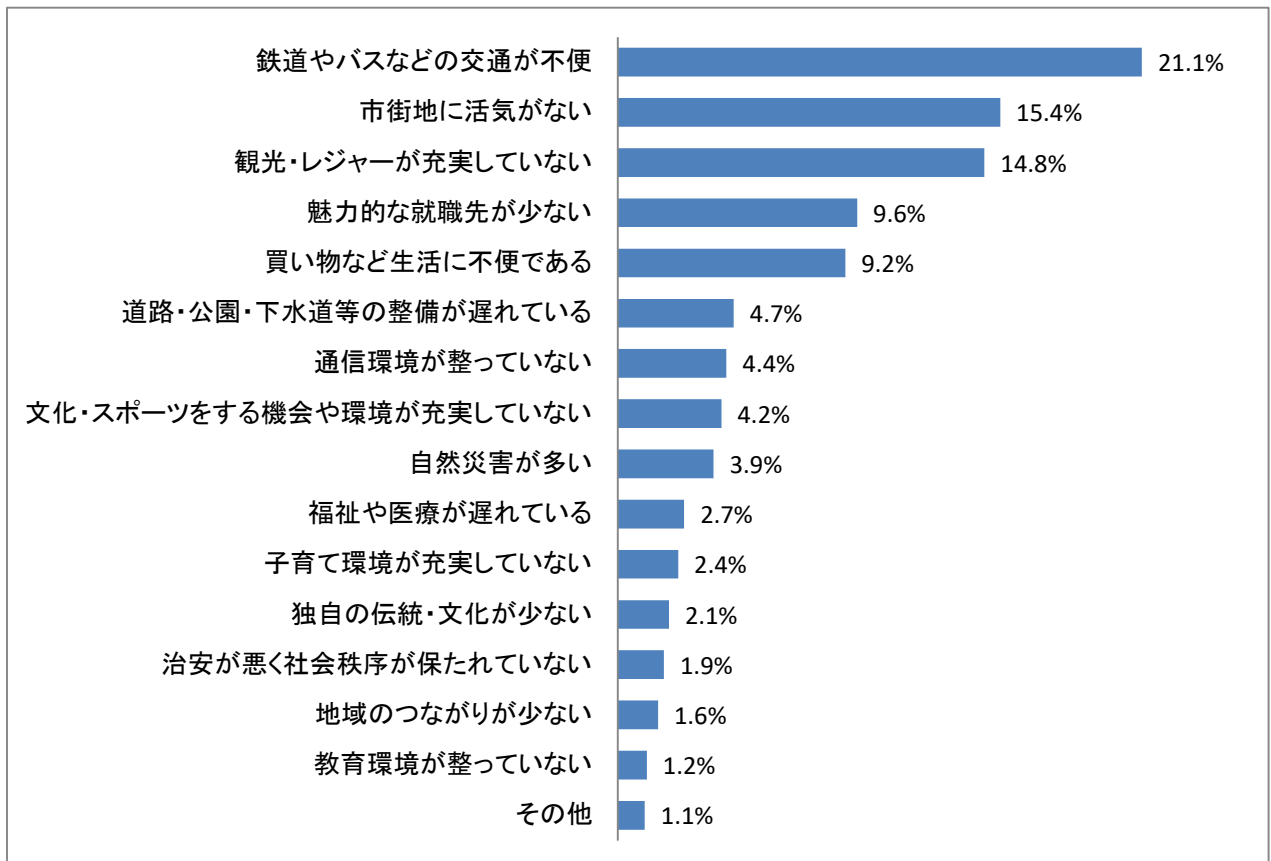
(5) 将来希望する仕事について



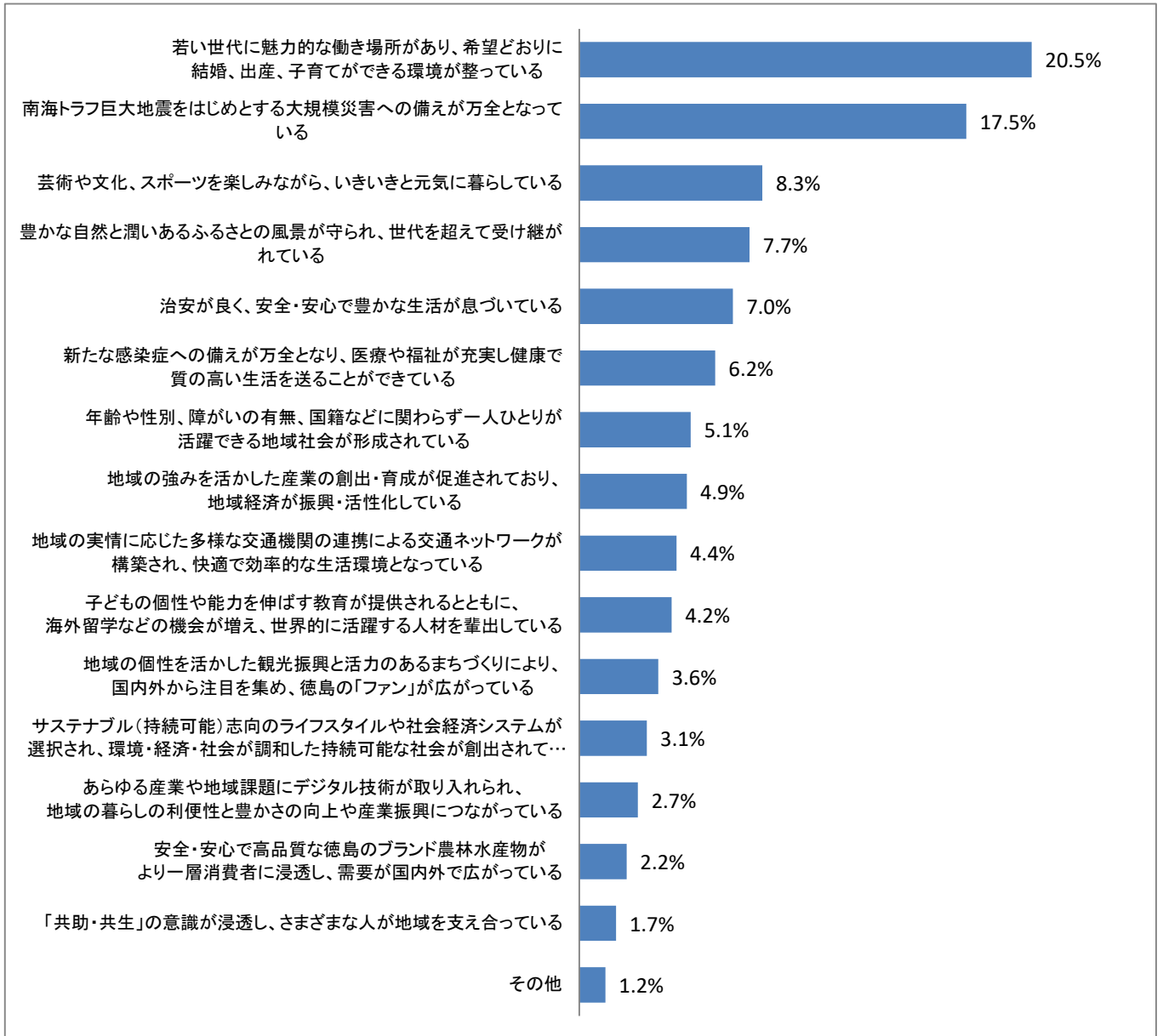
(6) 徳島県の良いところ(魅力的なところ, 自慢できること)について



(7) 徳島県の良くないところ(不安・不満を感じること)について



(8) 2060年頃に希望する徳島像について



(9) 前の問いで選んだことが実現されるために、今後、徳島県、学校、企業、そして県民のそれぞれがどのようなことに取り組んでいけばよいと思うかについて(自由筆記)

(主な意見)

1. 若い世代に魅力的な働き場所があり、希望どおりに結婚、出産、子育てができる環境が整っている

- ・誰もが個人個人の得意な分野などを伸ばすことができるような環境のもとで働けるように社員の意見を多く取り入れたりすればいろんな世代の良き人材を会社側も得ることができて、どちらの立場でも良い関係を築けるので、良いと思いました。
- ・子供に対する福祉をもっと充実させていけば良いと考える。周りの協力もあって子育てを出来るので、企業などの理解も必要だと考える。

2. 新たな感染症への備えが万全となり、医療や福祉が充実し健康で質の高い生活を送ることができている

- ・自らが自分自身の健康維持のために行動することができるように、一人一人が考えていくことが大切だと思います。また、隣人や地域の方々とのコミュニケーションを大事にして充実した生活を送ることが大切だと思う。
- ・定期的に運動をして、糖尿病などの生活習慣病にならないように対策する。

3. 芸術や文化、スポーツを楽しみながら、いきいきと元気に暮らしている

- ・受け継がれてきた伝統文化などを大切に、この先も続くように後の世代に伝えていき体験してもらって楽しんでもらう。
- ・子供の知識や運動能力の発展、大人の交流の場として、サッカーをするスタジアムや野球ができる球場、触れ合いの場となれる施設などにお金を惜しみなく使うべきだと思う。

4. 南海トラフ巨大地震をはじめとする大規模災害への備えが万全となっている

- ・県内では地震の規模をなるべく詳しく想定し、地域ごとにどのような対策を取るべきかを指導していけばいいと思う。学校では地震に対する対策や災害用備蓄物資の場所についての教育を充実すればいいと思う。企業は、災害用備蓄物資を各地域に設置するための資金を支援すればいいと思う。県民は、災害に対する意識を常に持ち、各地域ごとの「災害が起きた時の被害」を想定した対策を各家庭などで話し合い、助け合いができるように努力するべきだと思う。
- ・南海トラフ巨大地震によってどれくらいの被害が想定されているのかや、どんなものを用意しておけばいいのか、どこに逃げればいいのかなどを一人一人がきちんと理解して周りの人や地域できちんと共有しておく。

5. 地域の強みを活かした産業の創出・育成が促進されており、地域経済が振興・活性化している

- ・徳島が持つ特色を生かしながら、今ある特色を昇華させると同時に新しい特色の創造を進めることで衰退が進んでいる地域経済に歯止めを掛け、活性化を促すことが出来るかもしれない。例えば、過疎化が進んでいる地域にだけでなく、シャッター街となった商店街にもサテライトオフィスを呼び込むことで商店街も振興・活性化を狙える。
- ・若い世代に向けてのアピールが必要だと思う。例えば、SNS等で徳島県の産業を振興していくことの重要性をできるだけ多くの人に発信していくことが大事だと思う。そうすると、気になって調べる人も増えて間接的にでも関わってみたいと思う人が増えると思う。だからまず、多くの人に知ってもらうことが一番優先するべきことだと思う。

6. 地域の実情に応じた多様な交通機関の連携による交通ネットワークが構築され、快適で効率的な生活環境となっている

- ・車がないと生活しづらいのがなくなるといい。
- ・交通手段が少ないので、電車や新幹線があってほしい。汽車の本数を増やしてほしい。

7. 豊かな自然と潤いあるふるさとの風景が守られ、世代を超えて受け継がれている

- ・県…むやみに開発をせず保全団体などに支援金を出す。
学校…川の学校などの団体と協力して自然を感じられるイベントをする。
- ・適切な知識を持ち自分で考えて行動する。自然環境の保持・増進に繋がるような活動に参加する。防災・減災に取り組み、自然を長持ちさせる。親から子へ、子から孫へ、徳島の自然に触れるような体験をさせ、その重要性を伝える。

8. 治安が良く、安全・安心で豊かな生活が息づいている

- ・ポイ捨てや歩きスマホ、ながら運転などを禁止し、妊婦や赤ちゃん、高齢者や障がい者の皆さんが安心して気持ち良く生活できる環境を作る。
- ・住民同士が協力し具体的な解決策や活動方法を話し合い、県とともに様々なことを積極的にしていくべきだと思う。また、地域でパトロールを実施したり交流の場を設けていくことで、自然と治安は良くなり、さらに町に活気と笑顔が増えると思う。

9. 子どもの個性や能力を伸ばす教育が提供されるとともに、海外留学などの機会が増え、世界的に活躍する人材を輩出している

- ・英語の能力を今よりも育むために県内の市町村で、海外に留学するキャンペーンのようなものを企画して、実際海外に短期留学し、海外の文化に触れより一層海外に興味を持ってもらう。
- ・徳島県は若者への援助に力を入れなければならない。
学校はデジタルを利用した学習をするべき。

10. 年齢や性別、障がいの有無、国籍などに関わらず一人ひとりが活躍できる地域社会が形成されている

- ・当たり前で執着せず、他の選択肢があることも理解する。
一人一人違うのだから自分と違っていても受け止める。
- ・差別の考え方を少しでも減らすために学校教育で差別についてや多様性についてよく学べるようにする。また、バリアフリー化を進めたり海外の人が魅力的に感じて来てくれるような街づくりをする。

11. 「共助・共生」の意識が浸透し、さまざまな人が地域を支えている

- ・相互理解を深めること。相手を思いやる気持ちを一人一人が持つこと。
- ・今の若い世代も徳島県の政治や状況をしっかりと理解し自分から変えていこうという意識を持つことが大切だと思う。また、「共助・共生」の意識を浸透するために、もっと地域での避難訓練、ボランティア活動を増やしていくことで実現に向かうと思う。

12. 地域の個性を活かした観光振興と活力のあるまちづくりにより、国内外から注目を集め、徳島の「ファン」が広がっている

- ・徳島は文化・自然ともに素晴らしい魅力をもっているため、県には「vs東京」のようなインパクトのあるキャッチフレーズやそれに伴う映像などを県外に送り出してもらったり、企業には徳島の魅力を活かした製品やサービスを、県内だけでなく、県外でも提供していただきたい。そして、私たち県民は、「こういうところが素晴らしいですよ」といえるように、魅力の再発見が必要だと考える。
- ・徳島にある新たなものをみつけるのも大切だが、徳島に今あるものをいかにPRするか、興味をもってもらえるような広告にするかを考えるべきだと思う。

13. 安全・安心で高品質な徳島のブランド農林水産物がより一層消費者に浸透し、需要が国内外で広がっている

- ・学校では給食で地域の食材等を使いそれを使用していることなどを放送するなどして地産地消を身近にする。県民は地産地消を意識して買い物をする。企業は徳島ブランドということが分かりやすいように商品に表記をする。
- ・安心・安全な農産物を届けられるように、1つ1つの商品を大切に扱う。

14. あらゆる産業や地域課題にデジタル技術が取り入れられ、地域の暮らしの利便性と豊かさの向上や産業振興につながっている

- ・学校教育課程でのデジタル活用の促進。
- ・まずインターネットの仕組みを覚えることから始め、そこから海外の新しい技術を取り入れて産業を発達させていく。

15. サステナブル(持続可能)志向のライフスタイルや社会経済システムが選択され、
環境・経済・社会が調和した持続可能な社会が創出されている

- ・徳島県・どのような取り組みをするのか具体的な方法や情報示す。
学校・環境を守る、持続可能な社会に関する授業を充実させる。
- 企業・作る製品ひとつひとつに環境に対する配慮をし、捨てられるようなものが減るようなものを作り、販売する。ロスが減るようなものにする。
- 県民・一人一人ができることを考え環境を大事にする気持ちを持つ。環境にやさしいものを使うようにし、4Rを日々の生活の中に取り入れる。
- ・県民一人一人がSDGsについて考え、よりよい社会や環境にするために行動していかなければならないと思う。

16. その他

- ・若い人たちが立ち上がって考えなければ、何を取り組んでもダメだと思う。
- ・若い人でも楽しめるような場所にしていったらいいと思う。

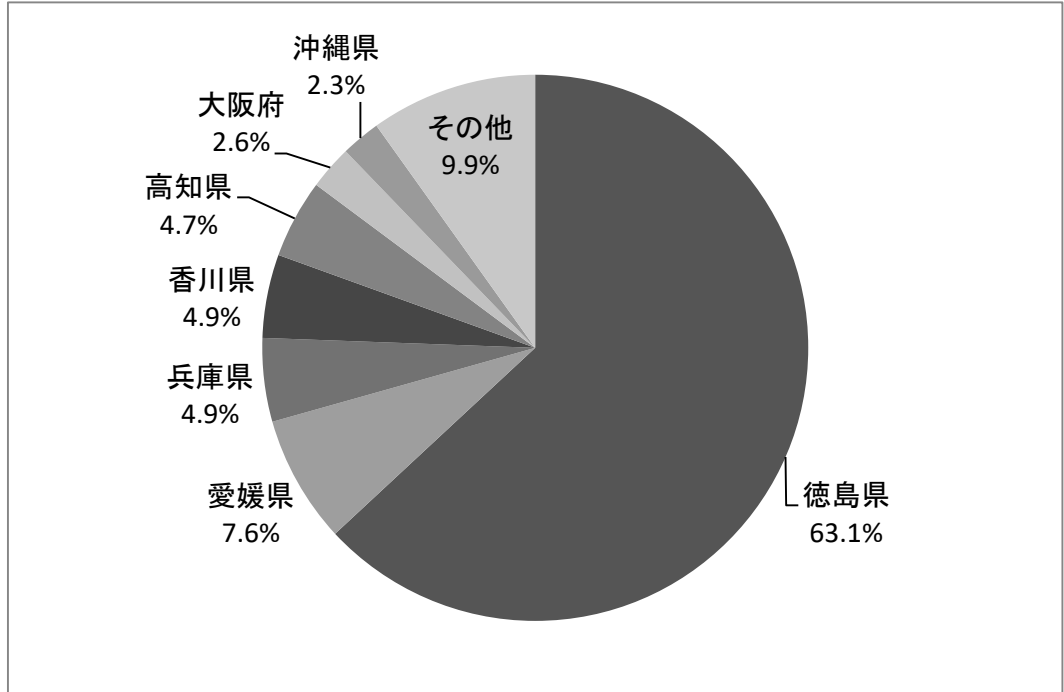
徳島県に関する大学生等アンケート

1. 調査対象 県内の大学・専修学校・各種学校に在学する学生

2. 調査数 344人

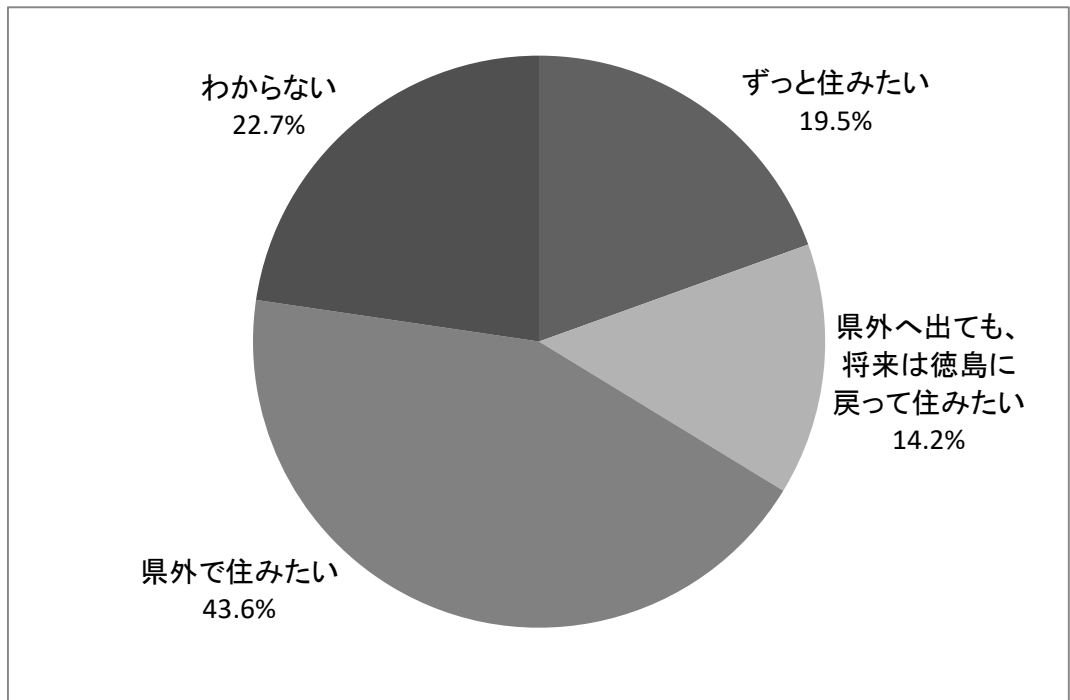
3. 調査対象の構成

(1) 出身地

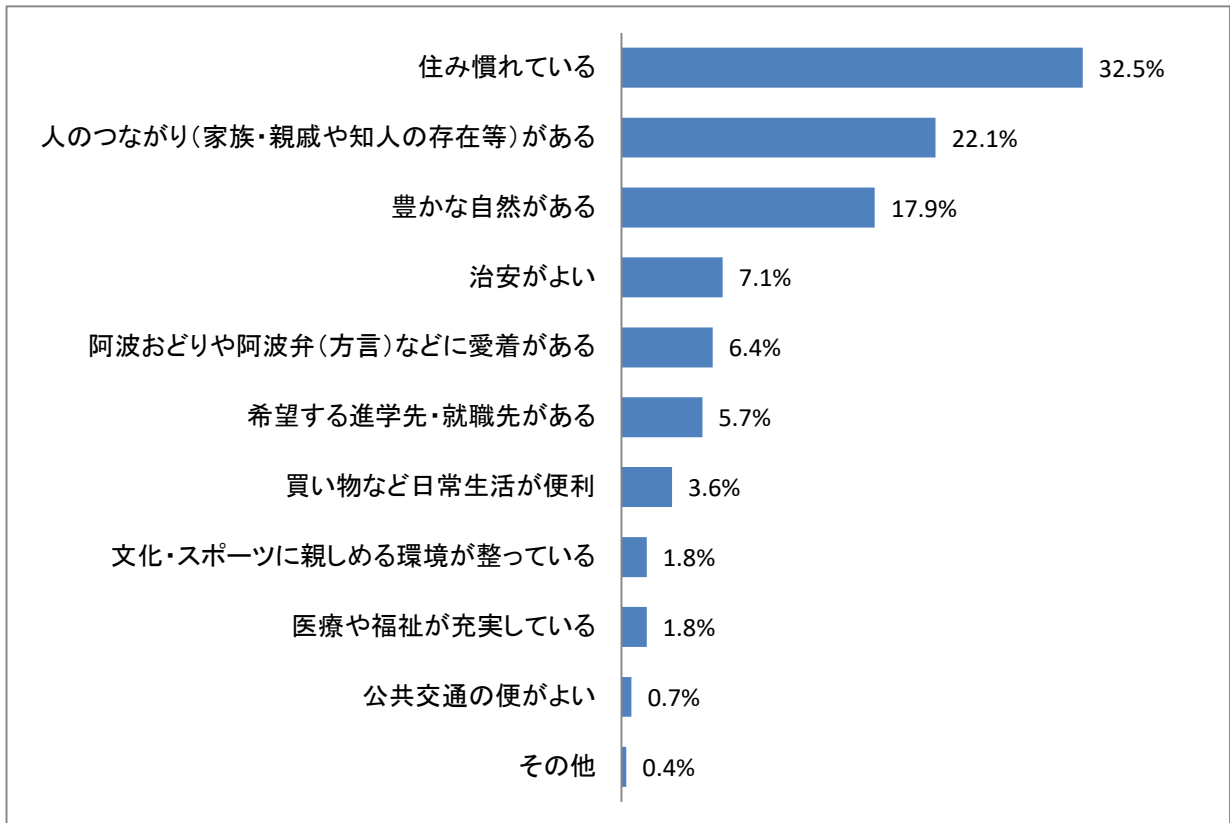


4. 調査結果

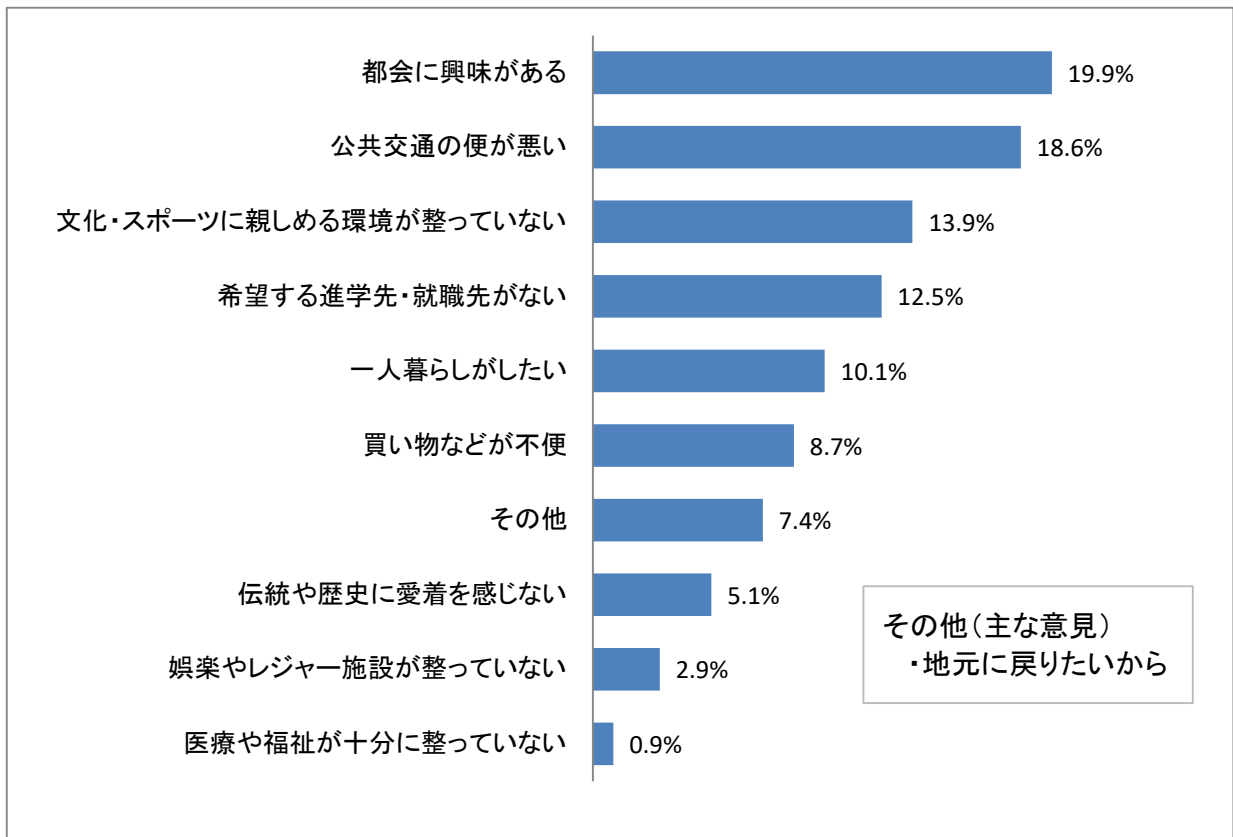
(1) 徳島県への定住志向について



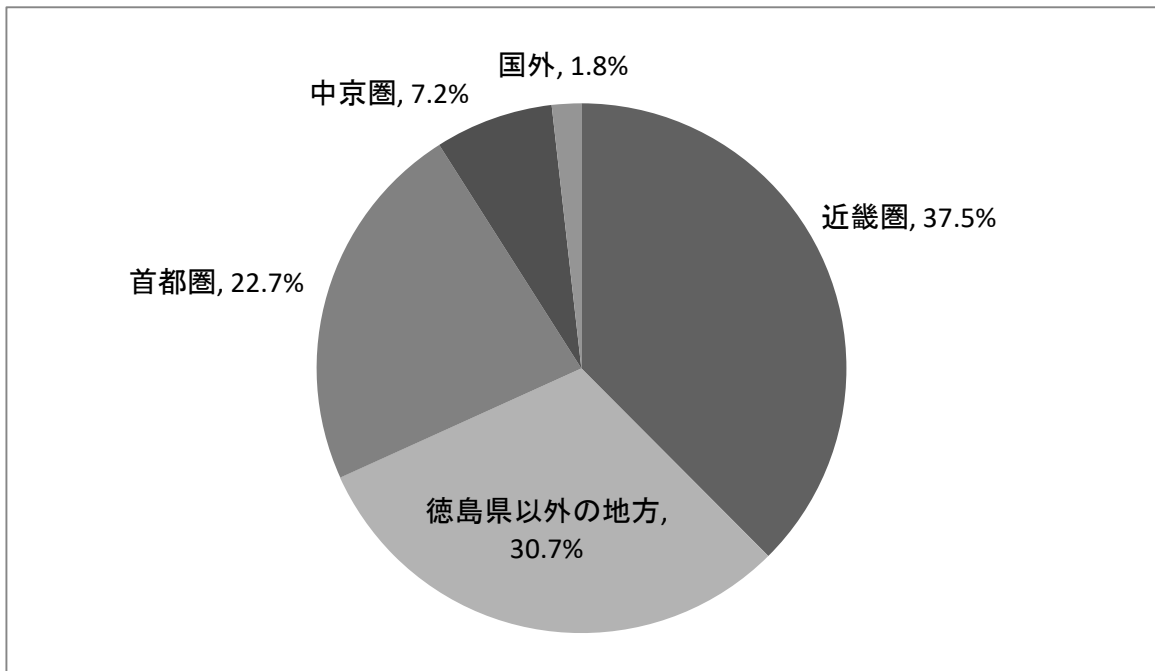
(2) 徳島県に定住したい理由について



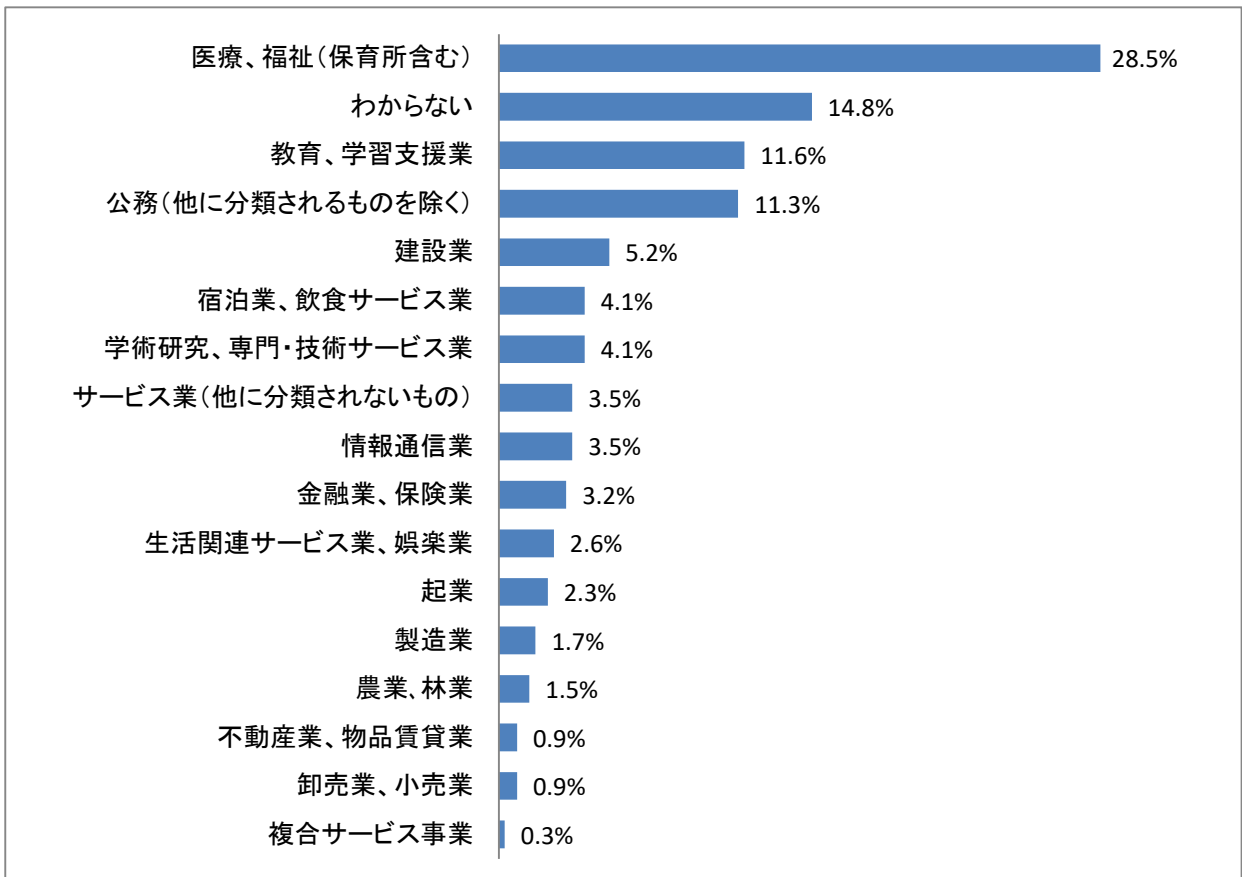
(3) 徳島県に定住したくない理由について



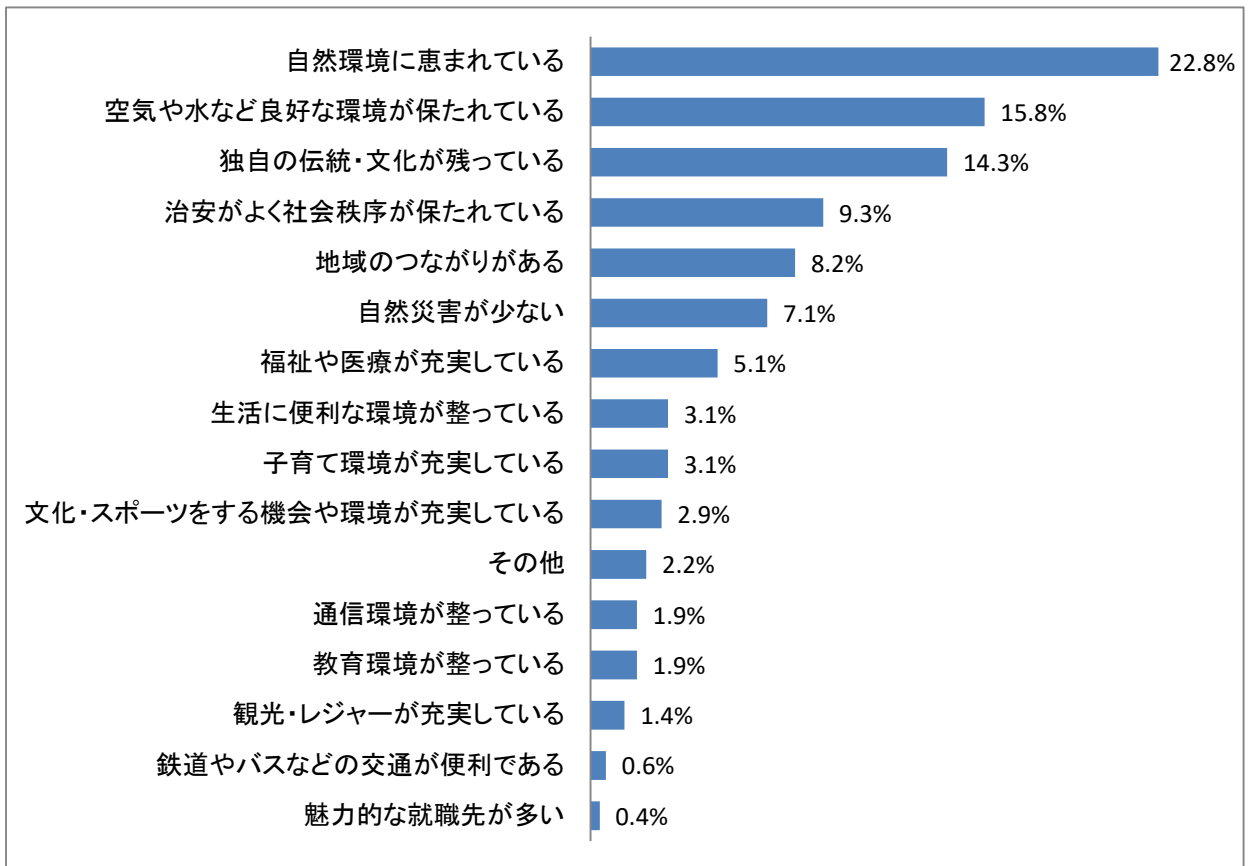
(4) 徳島県に定住したくない場合に希望する居住地について



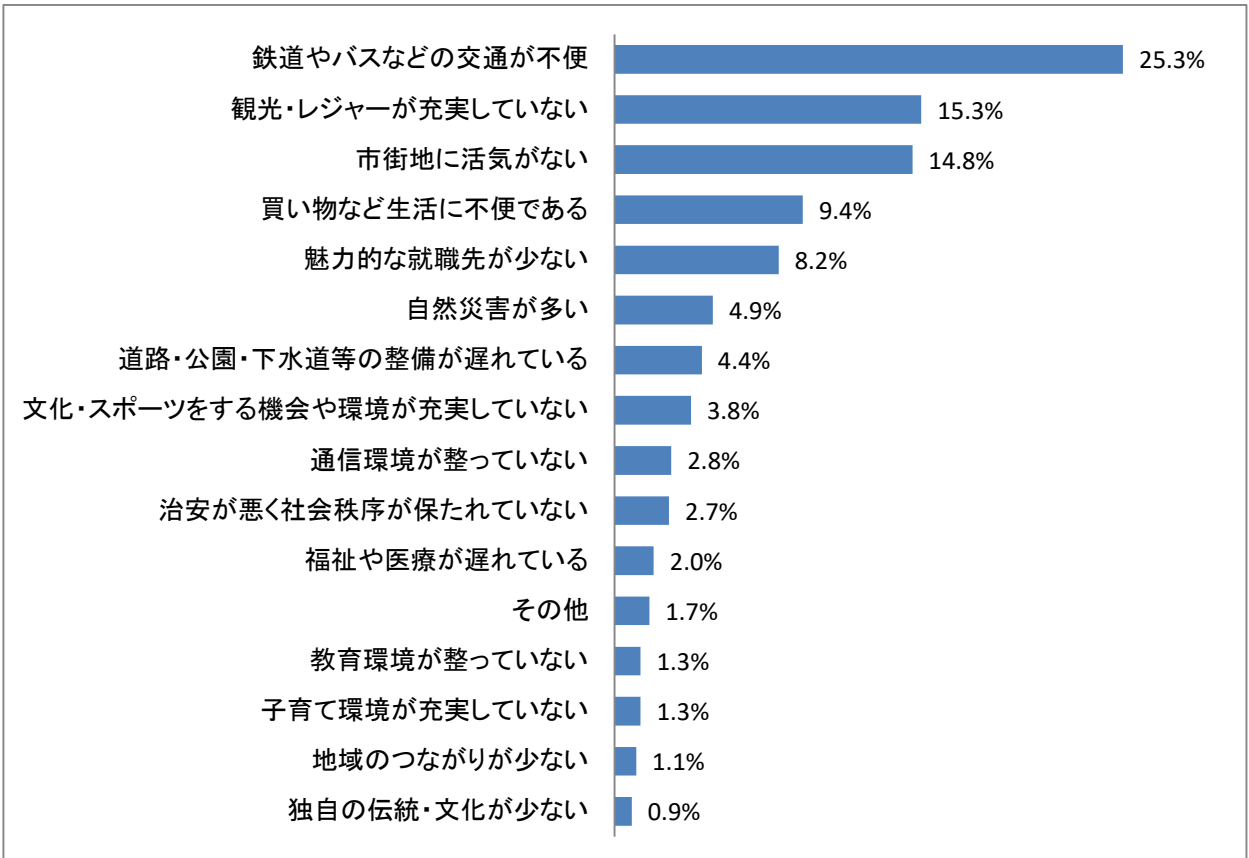
(5) 将来希望する仕事について



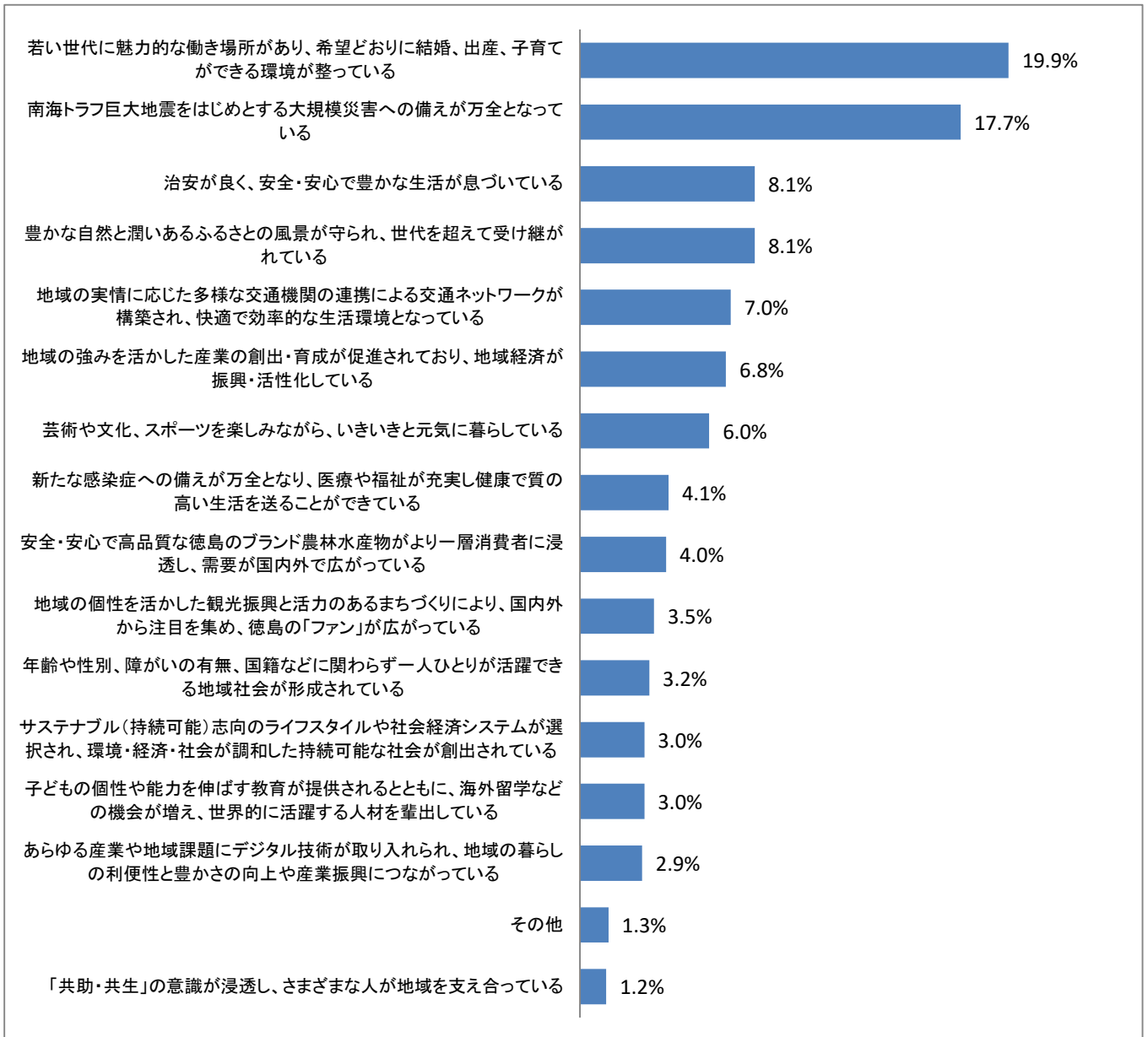
(6) 徳島県の良いところ(魅力的なところ, 自慢できること)について



(7) 徳島県の良くないところ(不安・不満を感じること)について



(8) 2060年頃に希望する徳島像について



(9) 前の問いで選んだことが実現されるために、今後、徳島県、学校、企業、そして県民のそれぞれがどのようなことに取り組んでいけばよいと思うかについて(自由筆記)

(主な意見)

1. 若い世代に魅力的な働き場所があり、希望どおりに結婚、出産、子育てができる環境が整っている

- ・出産や子育ては自分たちだけではなく、いろんな人に支えられて成り立つものだと思う。子供が生まれても働きやすい環境があったり、子供を預けられる保育所などの施設が整っていたりするととても良いと思う。
- ・収入に不安があっても、子供を安心して出産できる、育てられるように、お金・環境の支援を整える。

2. 新たな感染症への備えが万全となり、医療や福祉が充実し健康で質の高い生活を送ることができている

- ・他人事だと思わず、一人一人が意識のある行動をする。
- ・危険を予期して1歩先の行動を考えることが大切であると思う。

3. 芸術や文化、スポーツを楽しみながら、いきいきと元気に暮らしている

- ・運動施設や公園などのハードを整備することも重要だが、そこへのアクセス方法・運用方針・周囲の店舗との連携などのソフト面の整備も重要だと思う。
- ・徳島には受け継がれてきた文化が多数あるので、県民がもっと徳島のことを好きになり発信する必要がある。

4. 南海トラフ巨大地震をはじめとする大規模災害への備えが万全となっている

- ・劣化が進んでいる道や古い堤防の設計を見直して、より頑丈で安全な環境に改善していく。
- ・南海トラフ地震が起きた時、最も重要なのはどう行動するのか事前に知っていることだと思う。例えば、ハザードマップを各家庭や施設に設置することで、自分達がどこへ逃げればいいのか確認できる。また地震が起きたと想定したとき必要なもの(水や非常食など)を備えたり、徳島は車社会なので、運転中に地震が起きたらどうするべきか知るべきだと思う。

5. 地域の強みを活かした産業の創出・育成が促進されており、地域経済が振興・活性化している

- ・「地域振興は公の仕事である」と他力本願せず、学校・企業・県民も、それぞれがそれぞれの立場で地域のためになることを考え取り組むことが重要。
- ・徳島の方も県外から来た方も徳島のことをさらに深く知り、徳島を知らない人に伝えることができるようになる。

6. 地域の実情に応じた多様な交通機関の連携による交通ネットワークが構築され、快適で効率的な生活環境となっている

- ・県が取り組むことは、自家用車の必要ない交通ネットワークを整えること。子供に対しての手厚い支援を届け、生まれた環境にとらわれない高度な教育を行うこと。学校は、あらゆる子供に対し卒業した生徒が社会で活躍できる人材にできるように、教科目の変更、職員の働き方改善による優秀人材の確保に取り組む。企業は、オンラインを積極的に活用し、通勤回数を減らしどこにいても仕事を行える環境を整える。県民は、行政に身をゆだねるのではなく、自分で考え、自分の地域を良くする仕組みを積極的に話し合い、実現しなければならない。
- ・車を持っている人にしか行けない場所が多すぎるので、安価にかつ気軽に徳島県のいろいろな場所に行けるような交通面での整備をする。

7. 豊かな自然と潤いあるふるさとの風景が守られ、世代を超えて受け継がれている

- ・環境にやさしい取り組みに力をいれていく。
- ・豊かな自然を守り続けるために、学校や地域の行事などで清掃の時間をつくる。

8. 治安が良く、安全・安心で豊かな生活が息づいている

- ・各学校や企業で防犯教室を積極的に取り組んで意識を高める。
- ・交通マナーを守る人が増えるように指導を強化する。

9. 子どもの個性や能力を伸ばす教育が提供されるとともに、海外留学などの機会が増え、世界的に活躍する人材を輩出している

- ・留学の補助金等、子育て支援や教育への予算を確保する。
- ・学生に対する奨学金制度の拡充が必要だと思う。また、年齢制限といった条件のない奨学金も設立されると、社会人学生のような人の数も増加するのではないかと期待する。

10. 年齢や性別、障がいの有無、国籍などに関わらず一人ひとりが活躍できる地域社会が形成されている

- ・地域全体で楽しめる祭りや行事を増やすべきだと思う。
- ・教育機会の充実。学校教育だけでなく、社会人向けにもイベントなどで普及活動が必要と考える。

11. 「共助・共生」の意識が浸透し、さまざまな人が地域を支え合っている

・県民一人一人が徳島の自然環境や地域の活動に興味を持ち、地域をより良くするためにはどうすればよいかを考えて行動することが大切。何か困ったことがあれば相談できる環境を整え、人々が協力し合い助け合いながら困難を乗り越えていく必要があると考える。

・地域のつながりを構築するためにも、世代を超えて関わるができる場所や機会を増やしていくことが必要であると思う。育児も介護も、家族だけが背負うものではなく、地域みんなが育て、介護していくもの＝みんなで支え合うという文化や地域交流を推進してほしいと思う。

12. 地域の個性を活かした観光振興と活力のあるまちづくりにより、国内外から注目を集め、徳島の「ファン」が広がっている

・地元の良さについて、まずは知ることが大切。移住してきた人と話をする事で徳島の良さというものを外の視点から知るとい活動を行うべき。そうすることで徳島の良さをもっと引き出すこともできるし住んでいては思いつかないような考えも協働して考えることでより良いものへなっていくと考える。

・徳島県が抱えている現状を把握し、活力のあるまちづくりをしていくためにはどうすればよいかを一から考え、まちづくりにおいて徳島県が持っているものを最大限活かせるような取り組みを徳島県だけではなく、県民も一丸となって行っていけば良い。

13. 安全・安心で高品質な徳島のブランド農林水産物がより一層消費者に浸透し、需要が国内外で広がっている

・徳島県は美味しい食材がたくさんあり、県外や海外の方からの反応もとても良い。もっとその食材を使用した郷土料理などを食べる機会があればいいなと思う。

・徳島の観光地やイベント行事などを増やしてほしい。

14. あらゆる産業や地域課題にデジタル技術が取り入れられ、地域の暮らしの利便性と豊かさの向上や産業振興につながっている

・サテライトオフィスを展開しているような企業と連携し、行政DXを進めていくことでより徳島全体で行政サービスを受けやすくなり県民全体が安心安全な暮らしを営むことが出来ると思う。

・様々な仕事でDX化を進め、徳島に住んでいても、都市部と変わらず仕事ができる環境にする必要があると思う。

15. サステナブル(持続可能)志向のライフスタイルや社会経済システムが選択され、環境・経済・社会が調和した持続可能な社会が創出されている

・上勝町のような取り組みを県をはじめとした学校、企業、県民が取り組んでいく。そうすることでサステナブル(持続可能)県No.1になれると思う。

・経済活性化や観光業などに力を入れながらも、徳島の自然や文化が破壊されないようにしてほしい。また、徳島の伝統文化が受け継がれるように学校の総合的な学習の時間などの授業に伝統文化を取り入れれば良いと思う。

16. その他

・4県が協力し、四国に新幹線を通す。

・全部人が切符の確認等をするのではなく、全て電子化することで、無賃を防いだり、急がなくて済むと思う。